

東海脊椎外

Tohakai Spinal Surg.

ISSN 0913-476X



第40卷 令和8年4月

The Journal of
the Tohakai Spinal Surgery
Vol.40 April 2026



東海脊椎脊髓病研究会

東海脊椎外科 第40巻 令和8(2026)年4月

目 次

【巻頭言】

「AIと一緒にカルテを開くという日常」……………小林 和 克…………… 1

【脊椎脊髄病医への忙中有閑コラム】

BTTF ……………高 津 哲 郎…………… 3

雑感 ……………水 谷 潤…………… 5

朝の散歩 ……………湯 川 泰 紹…………… 7

【会則など】

東海脊椎脊髄病研究会会則 …………… 9

2025年度東海脊椎脊髄病研究会幹事会報告 …………… 11

【名簿】

東海脊椎脊髄病研究会 役員・名誉会員・功労会員名簿…………… 13

【巻頭言】

「AIと一緒にカルテを開くという日常」

小林 和 克*

生成 AI という言葉が、まるで当たり前のように飛び交うようになったのは、ここ一年ほどのことでした。正直、最初はどこか遠い話のように思っていました。ニュースで取り上げられているのを眺めながらも、自分たちの医療の現場に、本当にそんな技術が役に立つ日が来るのかと半信半疑で、慌ただしい救急・手術・外来の合間に、AIなんて触っている余裕なんてない——そんな風にも思い込んでいたのです。ところがこの夏、ついに私たちの病院にも正式に生成 AI「Ubie」が導入されました。それも、医師や看護師だけでなく、事務やリハスタッフまで、職員なら誰でも触れられるようにという方針で、大きなニュースのはずなのに、病院内の空気は不思議と柔らかく、「まずは使ってみようか」という前向きさが漂っていました。背景には病院長の「役に立つかどうかは、使い方次第」というシンプルな言葉があったのだと思います。その声がどこか現実感を帯びて響き、肩の力を抜いて始められたのが良かったのかもしれない。

初めて AI に触れた日のことを、今でもよく覚えています。長年術後フォローしている患者さんのカルテを要約させてみたのです。画面に現れたまとめは想像以上に整理されていて、他科での検査や診療内容まで一目で俯瞰できる形に整えられていました。正直、思わず声が出るほど感心しました。でも同時に、入力していないはずの年齢や性別を勝手に埋めていたのにはぎょっとしました。もっともらしく間違える AI というのは、想像していた以上に厄介です。あの時の、便利さと不気味さが入り混じった感覚は、今も少し心に残っています。

脊椎外科の診療は、とにかく情報量が多い仕事です。腰痛の影に潜む感染や腫瘍を見抜くためには、画像や血液データだけでなく、生活習慣や既往歴、数年前のちょっとしたメモのようなカルテ記録まで手繰り寄せる必要があります。そうした散らばった断片を AI が整理してくれるだけで、頭の中の負荷がふっと軽くなる。今までは患者さんの話を聞きながら頭の中で情報を並べ替えるのに必死でしたが、AI が事前に下準備をしてくれると、診察中の心の余裕が少し取り戻せるような気がします。患者さんへの説明も少し変わってきました。腰部脊柱管狭窄症や頸髄症の治療選択について話すとき、AI に簡単な図や文章の素案を作らせることもできます。それをもとに自分の言葉で手を加えていくと、今までよりも患者さんの理解につながります。AI の力は派手ではありませんが、説明の場面において、確かに支えになっていると実感します。AI の導入は、単なる効率化だけではなく、病院全体の空気まで変えました。会議の議事録や抄読会の要約を AI が仕上げてくれることで、スタッフは患者さんに向き合う時間を少しでも増やせる。紹介状の下書きもあつという間で、以前は後回しにしていた書類仕事も、今ではサクサク片付くようになりました。こうして浮いた時間やエネルギーは、患者さんのケアやカンファレンスに向けられています。

とはいえ、AI は決して万能ではありません。嘘をもっともらしく言うこともあるし、こちらの曖昧な質問には曖昧な答えしか返さない。その不完全さを前提に使うという姿勢が大事なのだと思います。そして、この「問い方」を工夫するという作業が、まるで私たちの診断力を試すかのようです。AI にどう質問するかを考えることは、自分の頭の中を整理する作業でもあるのです。

* 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 整形外科・脊椎脊髄外科部長兼整形外科・リハビリテーション科部長

今思うと、AIを取り入れたからといって仕事が劇的に変わったわけではありません。でも、「どこか少し余裕ができた」と感じる瞬間が増えたのは確かです。情報に追われるばかりだった日々の中に、ほんの少しの遊びや好奇心を取り戻したような感覚です。AIは私たちの代わりに判断する存在ではありません。ただ、そばに置いて一緒に考えることで、見える景色がほんの少し広がる。それだけでも、この変化を受け入れる価値はあるのだと思います。これからもきっとAIは進化し、医療の現場もどんどん形を変えていくでしょう。でも、変化を怖がらず、面白い余裕を持ちながら、一步ずつ歩んでいけたらと思います。今日もまた、AIと一緒にカルテを開きながら、そんなことをぼんやり考えています。

【脊椎脊髄病医への忙中有閑コラム】

BTTF

岐阜県立多治見病院整形外科 高津 哲郎

Back to the Future という映画をご存知の方は多いかと思えます。映画の公開は1985年で、当時私は大学生でした。公開後すぐに映画館へ観に行き、斬新なストーリーに衝撃を受けました。伏線回収も完璧で、後からなるほどね～となるシーンが沢山あり、映画を見終わった後にも楽しい、大好きな映画のひとつになりました。

また、映画の中で使われていた音楽、Huey Lewis & The News の♪The Power of Love や♪Back in Time などもお気に入りです、今でもたまに聴いています。

BTTF のあらすじを対話型 AI に尋ねてみました。

あらすじ (ネタバレ少なめ)

1985年、カリフォルニアに住む高校生マーティ・マクフライは、親友の発明家ドク (エメット・ブラウン博士) が開発したタイムマシンを使って、間違えて1955年にタイムトラベルしてしまいます。

このタイムマシンは、スポーツカー「デロリアン」をベースに作られたもので、時速88マイル (約142km) で走ると時間を移動できる仕組みです。

1955年に到着したマーティは、若かりし頃の両親に遭遇しますが、母親がマーティに恋をしてしまい、両親の恋のきっかけが崩れそうに…。そのままだと自分が将来生まれなくなるため、マーティは過去を正し、自分の未来を守るために奔走します。

一方、1955年にはまだ未来の技術 (プルトニウムなど) がなく、現代 (1985年) へ戻るためのエネルギーをどう確保するかも大

きな課題です。

見どころ

ユーモアとスリル満点のストーリー時代を超えた家族・友情・恋愛のテーマ見事な伏線回収とテンポの良い展開デロリアンなど未来的なガジェット

…ふむふむ、そんな感じです

そんな懐かしの Back to the Future が、映画公開から40周年となる2025年に、劇団四季のミュージカルとなって日本に登場しました。

ミュージカルが大好きな家族がチケットを取ってくれたので、公開まだ間もない2025年4月に東京竹芝の四季劇場で観て来ました。劇場内に入るとすぐに BTTF の世界観に包まれます。舞台の上だけでなく、壁など客席全体がサイバー空間、まさにタイムマシーンの中にいるような感覚です。そして開演前に会場内に流れている音楽は1985年あたりの、自分が大学生の頃に流っていた音楽です。あー懐かしい!

舞台が始まるとすぐに映画で見ていたシーンが思い浮かんできます。オリジナル版に非常に忠実で、映画の世界観が裏切られることはありません。それでも時代の変化でしょうか、人種差別的な発言や設定が変更されていたり、ステージ上という制約を逆手に取って?細かい所作が変更されている部分はありますが、むしろ上手いなあ、と感心しました。当然キャストは日本人ですが、オリジナル版の雰囲気や上手に表現し

ています。ひと目見ただけで、あ、この人がジョージ（マーティの父親の若かりし頃）だ！とか、ビフも出てきた～！って感じになります。

第1幕が終わり、幕間（休憩時間）に流れている音楽は、ちょうど舞台上のマーティがタイムトラベルしている1955年あたりの曲です。こういう細かい演出もたまりません。

舞台上という制約があるにも関わらず、デロリアンの疾走感は驚きですし、学生時代に好きだった80年代の曲や懐かしい感じの50年代の曲を生オーケストラで聴けるのも贅沢で、最高です。

映画を初めて見た時の自分の年齢はマーティに近かったわけですが、40年を経た現在の自分はドクの年齢（1985年当時で65歳の設定）に近くなりました。そのせいでしょうか、観劇中は主役のマーティではなく、ドクに感情移入して観ていました。ドクがマーティを助けるために奔走する姿を、現在の自分に勝手に重ね合わせてジーンと来てしまいました。映画のBTTF part III内でのドクの有名なセリフに、“Your future is whatever you make it, so make it a good one.”というものがあり、とても好きな言葉です。私自身、定年まであと数年となり、現在の自分の仕事（使命）は若い先生達の応援だと思っています。そして、そんなドクに感謝して未来へのメッセージを残すマーティの気持ちにも泣けました。年のせいでしょうか、この頃涙腺が緩んでしまい恥ずかしいです…

公演が終わり、♪Back in Timeを聴き

ながら劇場を出る頃には気分ブチ上がり間違いなしです！

ぜひ、もう一回観たいと思いましたが今のところ前売りチケットはかなり先まで完売しています（ちなみに私は1年以上先の2027 (!) 年2月の公演を予約してあります）。将来的に名古屋の四季劇場で観られるようになると良いのですが、すでに東京での延長公演が決まっていますので、もしかするとそのまま東京で数年間のロングランになるかもしれません。

私と同じようにオリジナルの映画版BTTFが好きだった方！、1985年あたりに青春時代を過ごされた方（1955年でも可です）！、「ミュージカルなんて、話している途中に突然歌い出して、小っ恥ずかしいわ!!」なんておっしゃらずに、ぜひご覧になられることをお勧めします！

最後に…

東海脊椎脊髄外科研究会事務局は以前、県立多治見病院内にありましたが、諸事情にて2015年より中部ろうさい病院整形外科内へ移管されました。急な事でしたが、その際には室捷之先生、加藤文彦先生に大変お世話になりました。そして現在の事務局長 伊藤圭吾先生に於かれましてはコロナ禍の中でのweb開催や、電子化などにも取り組まれ、本会の更なる発展に大変寄与されておられ感謝しております。

この場をお借りして御礼を申し上げますとともに、東海脊椎脊髄外科研究会の益々のご発展を祈念して終わりとさせていただきます。

【脊椎脊髄病医への忙中有閑コラム】

雑感

東京女子医科大学教授 附属八千代医療センター整形外科診療科長 水 谷 潤

早いもので名古屋を離れて5年半が過ぎた。2020年9月、縁もゆかりも全くない千葉へやってきた。COVID-19初年である。今でも名古屋へ月2回ほど帰るが、あの頃は新幹線は貸切同然、1両に数人しか乗っていなかった。緊急事態宣言という言葉が懐かしい。

ある日、東京女子医大整形岡崎主任教授からオファーがあった。“附属八千代医療センターでの脊椎診療が2年空白となってしまっており、地域医療への影響、何より経営面での落ち込みをなんとかしたい”と。

東京女子医科大学附属八千代医療センターは初代院長として東京女子医科大学名誉教授伊藤達雄先生が設立から関わられた病院である。伊藤先生からもお声がけを直接いただいた。大学病院としての役割と地域の最終病院としての役割を併せ持つ病院である。いろいろと悩んでみたが、心機一転また頑張ろうとオファーをお受けした。

着任当初から脊椎診療を軌道に乗せなければならなかったが、脊椎疾患の患者さんは多く、すぐに脊椎手術件数は増えていった。すぐに整形外科は着任前の約2倍の増収となった。

何よりも、着任当初のコロナ禍の中においても、平均して月に2人ほどの患者さんがわざわざ名古屋から私の手術を受けにきてくれた。緊急事態宣言の時でさえも、2年ほどはこのペースが保たれていた。その後も月1人ペースが続いた。さすがに現在では減ってきたものの、それでも今なお遠くまで手術を受けにきてくれる患者さんがいる。感謝。

—『やらないこと』『やれないこと』『やりたくないこと』『やれること』—

大学勤務が長く続いていることや、レジデント時代も地域の最終病院で勤務したためか、困っている患者さんに対してどんな困難な病態であろうとも、最終的には自らの手で手術を行い患者さんと向き合おうと考えてきた。高難度手術もできるようにならねばと研鑽してきたつもりである。麻痺が生じたらどうしようなどと怖気付く自分を時として奮い立たせながら、責任の重さに潰されないよう立ち向かってきたつもりである。

自分自身を振り返ると、駆け出しの頃と現在とではできる手術に大きな違いがある。当たり前である。懐の深さとも言えようか。

整形外科疾患は重度骨盤外傷などごく一部の症例以外、手術が生き死にに直結することはない。例えば、消化器外科悪性腫瘍手術では、どう考えても手術適応外という場合を除き、手術をやらなければ患者さんを助けることはできない。外科医自身も逃げは許されない。

一方で脊椎手術はどうであろうか？きちんとした手術が行われたとすれば、症状が改善する、たとえば、単純な腰部脊柱管狭窄症でも、“この程度なら手術やらなくても良いですよ”と主治医が言えば、経過観察がまかりとおる。患者さんは困っているにも関わらずだ。高難度成人脊柱変形手術や基礎疾患の塊のような患者さんにおいてはなおさらではないであろうか？自らの技量がないために、あるいは困難な病態から逃げたいために、面倒くさいシチュエーションに顔を突っ込みたくないがために、“まだ

様子みても良いですよ”“手術は必要ないですね”ということもまかりとおってしまう。

やったことがないから、やれないから、という思いが悔しくて脊椎手術の道に進んだのかもしれない。ホントにこんな手術やっていいの？やれるの？というクエスチョンに答えを出すには自分自身が、きちんと勉強し知識をつけ、先輩から学び、そして実際に手術ができるようにならなければ答えを出すことはできない。やったことがないまま評論家のようなことを平気でいうような外科医にはなりたくないと思ってここまでできた。もちろん、手術を行うということは、行わないよりも大きな責任が伴うことはいくらでもない。

—『名古屋は旨い』—

関東の食にも慣れてきたが、名古屋は本当に旨い。

名古屋の味は“濃い”とよく言われる。確かに“濃い”。しかし、ただ単に“濃い”のではない。深い出汁や素材の旨さを十分引き出した上での“濃さ”であることに気づいた。

東京で“旨い”とされる食事どころでも“しょっぱい”と感じる。私だけでなく、いつも妻も同じ感想を述べる。“美味しいけどしょっぱいよね、塩味が強いよね、なんか

もったいない”と。確かに美味しいが素材の旨み“が、しょっぱさの濃さ”で消されてしまっているように感じる。名古屋の“濃さ”は、出汁の深い旨みと素材の旨みの濃さである。たとえば味噌煮込みうどんの赤味噌。豆みそのこくと出汁の深みとが織りなす“濃さ”でありしょっぱさや辛味だけの表面的な“濃さ”とは全く違う。名古屋生まれ育ちであることに感謝。

—『まだまだ頑張る』—

体力的には長時間手術はかなりキツくなってきた。しかし、困難症例に今まで以上に向き合い、歳には負けないぞ!と思っている。暦年齢よりも若々しい老いを目指すぞ!

幸いよき後輩にも恵まれ、私を含めて当院の脊椎外科は現在4名体制となった。年々地域の信頼も厚くなり脊椎手術件数は増え続けている。

千葉大や他大学の関連病院に囲まれながらも仲良く仕事をさせていただき、困難症例や基礎疾患いっぱい症例をご紹介いただけるようになっていく。

病院の仕事も任されるようになってきた。さらに、SWJ2028での日本成人脊柱変形学会の重責も控えている。もうしばらく頑張っていこうと思っている。

【脊椎脊髄病医への忙中有閑コラム】

朝の散歩

名古屋共立病院脊椎脊髄外科センター 湯川 泰 紹

2021年4月に和歌山から名古屋に戻り、中川区の名古屋共立病院に勤めている。その前の5年間は大学病院勤務だったので、早朝からカンファレンスがあり朝早く起きる必要があった。さらに年齢を重ねたことで朝早めに目覚めるようになってきた。しかし今勤務している病院は民間病院で朝の始動がゆっくりである。外来は9時から、手術に至っては9時15分入室である。もっと早くから仕事ができるように各方面に交渉してみたが長き伝統で変更不可能であった。現実問題、朝早くに目覚めてしまうので、当然出勤までに空き時間ができる。ゆったり新聞を読むことができるといいという考えもあるが、せっかくなら何か有効活用したい。2016年までの中部労災病院時代は週末に犬（スパイン）と散歩するのがとても楽しい時間だった。和歌山に移ってすぐに散歩の相棒は亡くなり、その後は週末朝に空き時間があると、近所の海沿いの広い公園を一人でぶらぶら散歩していた。ということで朝の空き時間を利用して毎朝散歩することにした。自宅から山崎川沿いに新瑞橋の近くの橋まで往復6キロ弱の道のりで、少し速足で約1時間である。散歩を始めた4月初めはまさに桜の季節であり、歩いているだけで花見もできて気分が良い。山崎川は日本の桜100選に選ばれているだけあって、ソメイヨシノから八重桜まで楽しめ、散り際の桜吹雪や川面にできる花筏も美しい。その後は5月にかけて新緑が増え、気候も気持ち良く目にもよい。6月に入れば気温と湿度が上昇し、15分も歩けば汗が湧き出し、持っているタオル生地の手拭子では間に合わないほどだ。散歩後に

はシャワーを浴びて出勤することになる。7、8月の盛夏にはセミがうるさく鳴く中、シャツに水をこぼしたようになりながら歩いている。それでも早朝の時間帯なので何とか熱中症にならずに歩いている。秋になれば気温も落ち着き、10月中旬には金木犀が心地よい香りを醸してくれる。11月も中旬になると川沿いや瑞穂公園周囲の紅葉が美しい。桜を含めてきれいに色づいた葉がすべて落ちると、樹木が裸になって寒々しくなる。12月は日も短くなり、真っ暗闇の中で歩き始め、戻ってくる頃にやっと明るくなる。1、2月は早朝の寒さが厳しく、ネックウォーマーや耳当てをして手袋をはめ、ダウンを着て歩いているがとても寒い。体が温まるまでの15分が辛い。それを過ぎてしまえばもう大丈夫、最後まで歩ききれ。冬の朝だけは布団を出るのが苦痛で、散歩をやめたくなる唯一の季節だ。3月に入れば山崎川沿いにいろいろな花が咲き始め、桜が咲いて1年のサイクルを重ねたことに気付く。これで5サイクル目であり、4年8か月続けたことになる。1年に最低でも350日は歩いているので、単純計算で6km×1,630日であり、通算では9,780kmと1万キロ近くになった。

さすがに台風などによる暴風雨や積雪のある日は歩くことを控えているが、雨や小雪の時も傘をさして歩いている。出張で自宅を開ける時以外はほとんど毎日歩いていることになる。最近では国内、国外関わらず出張の時にスニーカーと歩くためのスポーツウェアを持参して、現地でも朝食前に歩いている。よほど治安が悪くない限り、海外でもなるべくホテル周辺を1時間程

度散歩している。ホテルを出て周辺の公園や住宅街を歩くことで、ホテルの gym では味わえない現地の人の住居や素の生活が垣間見えてくるのがまた楽しい。朝食もおいしくなるし、時差ボケ解消にも役立っているようだ。

最近では妻のお古の wireless イヤホンをつけて、落語や講談を聞きながら歩いている。現在人気の落語家だけでなく、古い落語家の囃しも聞いている。何度か同じ演目を聞くこともあり「寿限無」や「芝浜」などの有名な落語は内容が覚わってきたが、何度聞いても面白い。散歩の途中に一人でほくそ笑んでいると、行きかう人から怪訝な顔をされることもある。

朝の散歩が話題に上ると人様からは健康のためにいいですねと言われる。健康増進といえば聞こえは良いが、最大の目的は夕食時に制限なく飲食したいだけである。運動もせずに好き放題飲み食いすると体重は右肩上がりになる。体重をコントロールするために散歩を続けているようなものだ。それでももともと歩くことは苦でなく、どちらかというところ好きかもしれない。考え事があると歩きながらたっぷり時間をかけて考えることができ、短気な割には、落ち着いた回答を見出せる気もする。散歩中にはいろいろな景色・ものが見えてきて楽しい。

季節の移り変わりも目や肌を通して味わえる。服装がランニングと同じ格好なのでよく走っていると間違えられるが、ランニングと違ってあちこち痛くなることもない。散歩の延長で山歩きも時々やっている。山歩きは歩行時間も距離も長く、翌日以降に筋肉痛が出てもうやりたくないと思うのだが、またしばらくすると山歩きしたくなる。和歌山でコロナの時は県外出張や旅行を控えてくださいと大学からお触れが出た。学会や研究会も自粛で週末を持て余していた。それならこの際、有名な熊野古道を歩いてやろうと一念発起した。まずは紀伊路(大阪・和歌山県境一田辺市; 104 km) から始め、中辺路(田辺市一熊野本宮大社一新宮; 105 km)、大辺路(田辺市一串本一那智勝浦; 123 km) を歩き通した。1日に15~20 km を目途に何回かに分けて歩いた。週末を利用し、和歌山に数ある温泉地の宿泊と組み合わせて楽しめた。伊勢路(伊勢神宮一熊野本宮; 170 km) と小辺路(高野山一熊野本宮; 70 km) はまだ歩いておらず、定年後にチャレンジしたいと思っている。結局体を動かして、何かしていないと落ち着かないのだ。小さいころから落ち着きがないと言われ続けてきたが還暦を超えても変わらない、死ぬまで動き続ける性なのであろう。

東海脊椎脊髄病研究会会則

- 第 1 条 名 称
この会は、東海脊椎脊髄病研究会（以下、本会）と称する。本会は、東海脊椎外科懇話会、東海脊椎外科研究会を経て、2007年4月から改称したものである。
- 第 2 条 目 的
本会は、東海地区の脊椎・脊髄病に関心を抱く医療従事者の集まりであり、脊椎・脊髄病の研究に努め、会員相互の親睦をはかることを目的とする。
- 第 3 条 事 業
本会は、前条の目的遂行のため、次の事業を行う。
- (1) 学術集会の開催
- 1) 学術集会は、原則として年2回開催する。
 - 2) 学術集会は、演題報告を中心として実施する。
 - 3) 学術集会では、日本整形外科学会等の教育研修講演を行う。
- (2) 雑誌の発行
- 1) 本会は、医学雑誌『東海脊椎外科』（以下、本誌）を毎年発行する。
 - 2) 本誌には、会員お知らせ、忙中有閑コラム、会告、会則、投稿規定、チェック表、幹事会報告、役員名簿、編集後記を掲載する。
 - 3) 本会は、日本脊椎脊髄病学会が発行する『Journal of Spine Research（以下、JSR）』に参加・出費することとし、年12冊中の1冊（第4号）が本会特集号として発行される。これに掲載する原稿は、原則として本会編集部が選考したものとする。
JSR第4号には、会員にかぎり論文を掲載することができる。
 - 4) JSR第4号には、その他、編集委員会で適当と認めた原稿を掲載することがある。
 - 5) JSR第4号の論文は、複数者の査読を受けた上で掲載する。
 - 6) JSR第4号は、本会会員には無料配布する。会員以外は、別に定める本会細々則にある金額を支払うものとする。
- 第 4 条 会 員
本会の会員は、次の(1)または(2)と、(3)の条件を満たす医療従事者とする。
- (1) 東海地区、または、それに関連する地区の医師。
 - (2) 医師以外で入会を希望する者は、本会役員2名の推薦をもって会長の承認を受けたもの。
 - (3) 毎年、年会費を納入するもの。
- 第 5 条 会 費
会費は、年5,000円とする。
ただし、日整会教育研修講演等の受講料は別途に支払うものとする。
- 第 6 条 入会および退会
- (1) 入会は、医師では年会費納入をもって入会となる。
 - (2) 医師以外の者は、第4条(2)の承認を受けたうえで、年会費納入をもって入会となる。
 - (3) 退会は、退会希望者、または、3年間の会費滞納者とする。
 - (4) 会費滞納により会員資格を喪失した者の再入会は滞納分の会費を納めた上で新規入会手続きを取るものとする。
- 第 7 条 役 員
- (1) 本会は、役員として若干名の幹事と監事を置く。
 - (2) 幹事細則
 - 1) 幹事の中から互選により会長（代表幹事）を定める。会長の任期は2年とし、再任を妨げないが、原則として連続2期4年を超えないものとする。会長は、以下に定める各種の役員会を主催するものとする。
 - 2) 幹事・監事からなる幹事会を構成する。
 - 3) 幹事の中から互選により、若干名の常任幹事を定め、常任幹事会を構成する。
 - 4) 常任幹事は本誌の編集委員を勤めることとし、若干名の編集主幹を置く。
 - 5) 『Journal of Spine Research』編集委員会の本会編集委員を1名、定める。
 - 6) 新たな幹事を推薦するときには、幹事会の承認を受けるものとする。新たな幹事の就任資格条件としては、本会に寄与していることの実績がなければならない。

7) 3回連続して幹事会を欠席した幹事は、幹事の役職を失うものとする。

※やむをえない理由による場合は、その幹事の継続については幹事会で審議する。

8) 役員に定年制を定め、年度内に満65歳を迎えたものは、当該年度で役員を辞するものとする。

9) 幹事会で本会の事務局設置施設を定め、事務局長を指名する。

10) 常任幹事は新常任幹事の推薦と交代を希望することが出来る。

(3) 監事は、会の財務を監督し、会計を監査する。

第8条 名誉会員・功労会員

(1) 本会に名誉会員を置く。

1) 常任幹事経験者で幹事として65歳を超えた場合には、その年度までの年会費の納付があれば常任幹事会で審議後に名誉会員か功労会員となる。

2) 名誉会員は、本会各種幹事会に出席できるものとする。但し議決権は持たない。

3) 名誉会員は、年会費と幹事会費を免除される。

(2) 本会に功労会員を置く。

1) 功労会員は、本会の幹事を長年務めて会の運営に貢献した者で、定年制により幹事、および監事の任期を満了した場合に、常任幹事会および幹事会で推薦、承認され決定する。

2) 功労会員は、年会費を免除される。

第9条 顧問

(1) 本会に顧問を置く。

(2) 顧問は、本会運営に貢献する人とし、幹事会で推挙され決定する。

第10条 運営

(1) 本会の運営は、常任幹事会で企画し、幹事会の承認を受け、その旨を会員に通知することによって成り立つものとする。

(2) 研究会運営細則

1) 研究会で発表する者は、原則として本会会員でなければならない。

2) 本会会員以外で研究会学術集会に参加を希望する者は、参加費として1回につき1,000円を納入しなければならない。また、日整会教育研修講演等の受講料は別途に支払うものとする。

(3) 会計

1) 事務局設置施設に所属する幹事は、本会の会計を兼務する。

2) 会期ごとに監事による監査を受け、会計報告を行う。

(4) その他

本会の運営にあたり、事務的処理など適宜対応すべき事項については、別に細々則を定めて実施するものとする。

第11条 本会の会期は、1月1日より12月31日までをもって1年とする。

第12条 この会則に定めるもの以外に必要な事項は、会員の総意を尊重して幹事会で定めるものとする。

〔施行〕 1) この会則は、1988年4月1日から施行する。

2) 一部改正しての施行：1989年4月1日付け、1991年4月1日付け、1995年2月1日付け、1996年2月1日付け、1999年6月1日付け、2000年3月1日付け、2002年3月1日付け、2005年3月1日付け。

3) 2007年4月1日付けで、名称変更を含んで大幅に改訂し、実施する。

4) 2008年1月30日付けで、一部改正し、施行する。

5) 2010年4月1日付けで、大幅に改正して施行する。

6) 2011年4月1日付け、2012年4月1日付けで、一部改正して施行する。

7) 2015年4月1日付けで、一部改正して施行する。

8) 2016年4月1日付けで、一部改正して施行する。

9) 2017年4月1日付けで、一部改正して施行する。

10) 2018年4月1日付けで、一部改正して施行する。

11) 2022年4月1日付けで、一部改正して施行する。

12) 2024年4月1日付けで、一部改正して施行する。

13) 2025年4月1日付けで、一部改正して施行する。

2025 年度東海脊椎脊髄病研究会幹事会報告

2025 年 6 月 7 日 (土) の第 102 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会後に幹事の先生方にお知らせした決定事項と連絡事項承認等の各結果について、以下のように報告します。

1. 役員人事について

- 1) 名誉/功労会員に推薦：蜂谷裕道先生が名誉会員，益田和明先生が功労会員
(2026 年は松山幸弘先生，安藤智洋先生が名誉会員，西本聡先生，三浦恭志先生が功労会員へ)
- 2) 新常任幹事代表幹事を松山常任幹事代表が指名
- 3) 新幹事に推薦：(岐大系) 山田一成先生 (益田和明先生のご定年にて)
(三重大系) 竹上徳彦先生 (倉田竜也先生ご辞退にて)
- 4) 名大系 2 名，藤田医大系 1 名，浜医系 1 名の幹事を大学代表が推薦
- 5) 神谷光広先生から常任幹事ご辞退と，若尾典充先生の常任幹事へのご推薦 (承認)
- 6) 常任幹事は新常任幹事の推薦と交代を希望することが出来る
常任幹事会の審議は臨時会議 (メール審議) で決定 (過半数の賛成) できる
- 7) 幹事審査時の業績集・略歴集の取り決めについて
自著のみ記載，代表論文を各 10 編提示 (雑誌東海脊椎，JSR 東海脊椎号は記載)

2. 2025 年度～学術集会活動予定

(名大→岐大→藤田医→浜医→愛知医・名大→名市大→三重大)

※各大学が当番幹事の選定，座長は当番幹事が会員の中から選定

第 102 回 2025 年 6 月 7 日

当番幹事 酒井義人先生，町野正明先生，村本明生先生，湯川泰紹先生

第 103 回 2025 年 11 月 29 日

当番幹事 岩井智守男先生，野澤聡先生，伏見一成先生，増田剛宏先生

第 104 回 2026 年 6 月 6 日

当番幹事 金子慎二郎先生，藤田順之先生，吉岡淳思先生，川端走野先生

第 105 回 2026 年 11 月 28 日

当番幹事 浜医系

第 106 回 2027 年 6 月 5 日

当番幹事 愛知医・名大

第 107 回 2027 年 11 月 27 日 or 2027 年 12 月 4 日

当番幹事 名市大

第 108 回 2028 年 6 月 3 日 or 2028 年 6 月 10 日

当番幹事 三重大

第 109 回 2028 年 11 月 25 日 or 2028 年 12 月 2 日

当番幹事 名大

3. 雑誌の発行について

JSR 統合雑誌・東海脊椎脊髄病研究会号 (第 16 巻 4 号) の論文

Editorial：1 題，原著：2 題，症例報告：4 題

JSR 統合雑誌・東海脊椎脊髄病研究会号 (第 17 巻 4 号) (2026 年 4 月発行)

Editorial：伏見一成先生，他

東海脊椎外科 39 巻 (完全電子化)：2025 年 4 月発行

巻頭言：若尾典充先生，コラム：井上英則先生，浦崎哲哉先生，後藤学先生，会則，幹事会報告

東海脊椎外科 第 40 巻 (2026 年 4 月発行)

巻頭言：小林和克先生，コラム：高津哲郎先生，水谷潤先生，湯川泰紹先生

4. 会計監査報告：2025年1月6日 承認済(別紙) 約-36万
(支出) 雑誌発行：258万円(JSR 125万, 100回記念誌 133万), ホームページ：26万, 事務所費：30万,
(郵便局解約：35万) など/計 約 349万円
(収入) 第38巻広告+バナー広告掲載料：122万円, 100回記念懇親会費：60万, 年会費：95万, (郵便
局解約：35万) など/計 約 313万円
5. 2025年度財政問題 +44万円
(支出) 雑誌発行：150万(JSR17巻：125万円, 第39巻：25万円ほど),
その他経費：50万円, ホームページ：46万円/計 246万円ほど
(収入) バナー広告
「プレミアム・バナー広告」年間10万×5社
「スタンダード・プラス・バナー広告」年間5万×8社
「スタンダード・バナー広告」年間3万×8社 計 バナー広告料114万円
2025年度年会費173名：86万5千円(年会費未納分：62万2千円)
臨時収入としてニューベイスシブジャパン様より90万円のご寄付
(カダバーセミナーへの協力に対して)/計 290万円ほど
6. 会費滞納者
今年度で4年以上入金されなかった2名に退会処理を行った。
会員数209名(会員 My Page 登録者158名)
7. 投稿論文：2025年度からJSR 共通システム ScholarOne 開始
→査読者は学術集会の当番幹事の中で東海脊椎脊髄病研究会の幹事以上に依頼
※症例報告, Case series などの投稿の際の倫理委員会での審議は不要
8. 学会ホームページの活用・プログラムの電子化
Web上での手技 Video 開始
各医療機器メーカー, 製薬会社, 同門の開業医様などへ積極的にバナー広告を宣伝
企業とコラボした手術動画(医療器機の使用方法など)を Web コンテンツへ(趣意書は別途作成)
雑誌編集委員会は2025年度から休止
40巻以降も雑誌東海脊椎は継続
9. ゆうちょ銀行解約について
解約完了
10. 会員規約の第7条2項7号の変更
『3回連続して学術集会を欠席した幹事は, 幹事の役職を失うものとする』
コロナ禍にて hybrid 開催もあり, 出欠席は不明瞭. 101回から可能のため再開予定
『3回連続して幹事会を欠席した幹事は, 幹事の役職を失うものとする
※やむをえない理由による場合は, その幹事の継続については幹事会で審議する』と変更
11. 2025年9月19日~20日開催 32nd JPSTSS の案内をホームページへ掲載

2026年4月1日

東海脊椎脊髄病研究会
会長(代表幹事) 酒 井 義 人
幹 事 一 同

東海脊椎脊髓病研究会 役員・名誉会員・功労会員名簿

(五十音順)

(2026年4月1日現在)

【常任幹事】 ◎：会長(代表幹事) *事務局長兼任

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 明 田 浩 司 三重大学医学部
514-8507 津市江戸橋 2-174
TEL: 059-231-5022 FAX: 059-231-5211 | 伊 藤 圭 吾* 中部労災病院
455-8530 名古屋市港区港明 1-10-6
TEL: 052-652-5511 FAX: 052-653-3533 |
| 稲 田 充 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
462-8508 名古屋市北区平手町 1-1-1
TEL: 052-991-8121 FAX: 052-916-2038 | 今 釜 史 郎 名古屋大学医学部
456-8550 名古屋市昭和区鶴舞 65
TEL: 052-741-2111 FAX: 052-744-2260 |
| 小 原 徹 哉 名城病院
460-0001 名古屋市中区三の丸 1-3-1
TEL: 052-201-5311 FAX: 052-201-5318 | 金 子 慎 二 郎 藤田医科大学医学部
470-1192 豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
TEL: 0562-93-2169 FAX: 0562-93-9252 |
| 金 村 徳 相 JA 愛知厚生連江南厚生病院
483-8704 江南市高屋町大松原 137 番地
TEL: 0587-51-3333 FAX: 0587-51-3300 | 小 林 和 克 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
466-8650 名古屋市昭和区妙見町 2-9
TEL: 052-832-1121 FAX: 052-832-1130 |
| 近 藤 哲 士 医療法人博仁会村瀬病院
513-0801 鈴鹿市神戸 3-12-10
TEL: 059-382-0330 FAX: 059-382-8562 | ◎酒 井 義 人 国立長寿医療研究センター
474-8511 大府市森岡町 7-430
TEL: 0562-46-2311 FAX: 0562-44-8518 |
| 長 谷 川 智 彦 JA 静岡厚生連遠州病院
430-0929 浜松市中央区中央 1-1-1
TEL: 053-453-1111 FAX: 053-401-0081 | 福 岡 宗 良 公立陶生病院
489-8642 瀬戸市西追分町 160 番地
TEL: 0561-82-5101 FAX: 0561-82-9139 |
| 藤 田 順 之 藤田医科大学医学部
470-1192 豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
TEL: 0562-93-2169 FAX: 0562-93-9252 | 伏 見 一 成 岐阜県総合医療センター
501-8717 岐阜市野一色 4-6-1
TEL: 058-246-1111 FAX: 058-248-3805 |
| 宮 本 敬 岐阜市民病院
500-8513 岐阜市鹿島町 7-1
TEL: 058-251-1101 FAX: 058-252-1335 | 村 上 英 樹 名古屋市立大学医学部
467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1
TEL: 052-851-5511 FAX: 052-842-0266 |
| 若 尾 典 充 愛知医科大学医学部
480-1195 長久手市岩作雁又 1-1
TEL: 0561-62-3311 FAX: 0561-63-4707 | |

【幹 事】

飯沼宣樹	井上英則	鷓飼淳一	浦崎哲哉	大塚聖	視
片山良仁	加藤皓己	加藤賢治	加藤慎一	神谷光	広
後藤学	近藤章	榊原紀彦	佐多和仁	佐竹宏太	郎
志津直行	新城龍一	鈴木伸幸	鈴木喜貴	高津哲郎	彰
竹上謙次	竹上徳彦	辻太一	都島幹人	中島宏彰	朗
野澤聡	花村俊太郎	林義一	坂野友啓	飛田哲朗	宏
藤原達彦	増田剛宏	町野正明	松原祐二	松本智宏	樹
水谷潤	南谷千帆	村本明生	八木清紹	八木秀樹	剛
安田達也	大和雄	山田一成	湯川泰	吉田	
吉原永武					

【監 事】

藤田順之 藤田医科大学医学部 筑間浩 筑間浩公認会計士事務所
470-1192 豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
TEL: 0562-93-2169 FAX: 0562-93-9252

【事務局】

国立長寿医療研究センター整形外科内
474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
TEL: 0562-46-2311, FAX: 0562-44-8518

【名誉会員】

安藤智洋	伊藤茂彦	大澤良充	加藤文彦
櫻井公也	塩川靖夫	清水克時	鈴木信治
中井定明	野坂健次郎	蜂谷裕道	花井謙次
原田敦	細江英夫	松山幸弘	見松健太郎
村田英之	室捷之	森山明夫	

【功勞会員】

相田直隆	石井要	石田義博	泉田誠
井上喜久男	大脇義宏	川上紀明	河村守雄
坂賢二	榮枝裕文	榊原健彦	佐藤公治
鈴木和広	西本聡	野口耕司	服部敏
服部寿門	益田和明	三浦恭志	宮下徳雄
村田盛郎			

【顧問】

秋山治彦	石黒直樹	井上哲郎	岩田久
内田淳正	大塚隆信	佐藤啓二	須藤啓広
高橋伸典	長野昭	松永隆信	山田治基

【編集部】

編集委員長：伊藤圭吾，編集顧問：室捷之，加藤文彦，伊藤茂彦
編集主幹：都島幹人，林浩之
編集委員：常任幹事一同

東海脊椎外科 第40巻 ISSN 0913-476X

発行所	東海脊椎脊髄病研究会©
事務局	〒474-8511 愛知県大府市森岡町7-430 国立長寿医療研究センター 整形外科 TEL 0562-46-2311, FAX 0562-44-8518
発行責任者	酒井義人
印刷者	東崎元彦
印刷所	東崎印刷合名会社
印刷日	2026年4月1日
発行日	2026年4月20日
The Journal of the Tohkai Spinal Surgery, Vol. 40, April, 2026	

本誌掲載内容の一部または全部の複写・複製・転載は、著作権および出版権侵害となることがあるので
ご注意ください。

目 次

【巻頭言】

「AIと一緒にカルテを開くという日常」 小林 和 克..... 1

【脊椎脊髄病医への忙中有閑コラム】

BTTF 高 津 哲 郎..... 3
雑感 水 谷 潤..... 5
朝の散歩 湯 川 泰 紹..... 7

【会則など】

東海脊椎脊髄病研究会会則 9
2025年度東海脊椎脊髄病研究会幹事会報告 11

【名簿】

東海脊椎脊髄病研究会 役員・名誉会員・功労会員名簿..... 13